

## 日本労働年鑑 第53集 1983年版

The Labour Year Book of Japan 1983

## 第二部 労働運動

## II 主要な労働組合の大会

## 3 中立労連、新産別、総連合、金属労協の大会

## 2 新産別第三四回定期大会

全国産業別労働組合連合(新産別)第三四回定期大会は、八一年一〇月二六日から三日間東京・上野の池之端文化センターで開催され、八二年度運動方針を決定した。大会冒頭あいさつにたった小方委員長は「左右の問題にこだわる必要はない。それよりも単組・単産の団結を基本にしていくべきだ。最も大切なことは民主的な手法が保障されているかどうかだ。少数意見や批判的な立場のものも団結と統一の中に正当な地位をもつことが必要だ」とのべ、また来賓としてあいさつした富塚総評事務局長が「思想・信条のちがひ、組合の生いたちで差別すべきでない」としたのにたいし、浅野同盟副会長、堅山中立労連議長はいずれも基本構想に反対するものの統一準備会への参加は認められまいとの立場を示した。

提案された運動方針は、一、運動の基調と課題、二、組織の強化拡大と共闘の推進、三、戦線統一の推進からなり、とくに戦線統一に関しては、これまで確認してきた統一の原則を基調として、(1)新産別が一致して統一準備会に参加し全的統一をめざして努力する、(2)統一の目的は運動の主体性確立、危機の克服にある、(3)多様性を相互に認めあう、(4)基本構想には官公労のスト権など問題点があり、このため討議を保証し一致した目標については共闘をくむなどを柱としている。これをめぐる大会論議では「今のままで統一した場合、春闘をはじめ生活向上に役立つのか、統一組織は組合員の期待にこたえ闘う組織になるのか、先を急ぐだけが統一ではない」(全機金)など疑念がだされたほか、「統一労組懇についても統一懇は地域に根をはった運動を具体的、着実におこなっている。具体的には一企業の組合を二重加盟もふくむ方式へというように推進している。地域住民と活動をまきおこしていくというものが必要ではないか」(全機金)との意見がだされた。これにたいして富田書記長は「多様性を認めることが必要だ。統一懇のやり方についても学び、熱心さというものを生かしてゆかねばならない」とのべ柔軟な姿勢を示した。このほか方針では生活と雇用確保という視点からパート、派遣労働者の問題がとりあげられており、下請・外注、パート・臨時労働者の大幅導入、外部要員など本来組合員である労働者がになっていた仕事が未組織労働者によって代替されている状況にたいする対策の問い直しを提起している点が注目される。大会は同方針案を原案どおり決定するとともに「福祉切り捨ての行政改革に反対し、仲裁裁定および人事院勧告等の完全実施に関する決議」、「政治反動化を阻止し、平和と民主主義を守る闘いに関する決議」を採択して閉幕した。

---

■←前のページ 日本労働年鑑 1983年版(第53集)【目次】次のページ→■  
日本労働年鑑【総合案内】

---

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)

---